

出席者

青木、石川、市ノ川、岡部、神前、
鈴木、田中、中島、中野、並木、
松田、三浦、安田、矢野、山岡、
吉野、

Dec 2, '95

BMW RS Club

かわらばん

忘年会始末記

銀座／松坂屋裏
焼き鳥の店“のんちゃん”

夜半からの強い風が吹いた翌日は、銀杏の枯葉が辺り一面を黄色に染め、周りのケヤキや青桐の葉も、既に冬支度に入った感じです。そんな中でハゼの木のみが真っ赤に色づいて、僅かに秋の名残を留めていています。我が家に近いサトウ・ハチローの旧宅では、彼が庭に有るこの木を眺めながら、あの有名な「小さな秋みつけた」の作詞をしたとか。私は同じ木を見て旨い赤ワインが飲みたくなりました。どう気取ってみても、所詮は詩人と凡夫（バイク野郎？）との違いでしょうか。我がRSクラブの今年の活動も、この忘年会で一年の締めくくりとなりました。その会場となった銀座に出ると、デコレーションを施されたクリスマスツリーが、ライトアップを受けて夜空に輝き、“小さな冬を見つけた”ような気が致しました。（俺も詩人かな？）

銀座の街にはもうクリスマスキャロルが流れ、店々の飾り窓はカラフルに彩られて、もうすっかり暮れのたたずまいです。しかしながら師走にしては暖かな夕で、街を歩く人もコートを手を持ち、思い思いに店を覗いていました。私も風呂上がりにビールを飲み、ご機嫌で久々に銀座の街を散策し、本屋を冷やかしたりしながら“みゆき通り”に入ると、道の両脇の木々に豆電球が付けられ、夕闇が迫って来るとパリの裏町でも歩いているかのようでした。そして今日の忘年会場の「のんちゃん」へ入りました。

約束の時間には少しばかり早かったものの、既に十人ばかりのメンバーが座敷にとぐろを巻いていました。定刻の時間になると、喉の乾いたメンバーがソワソワし始め、五分ばかりして“もう待ちきれないから始めよう”ということになりました。一言でも気取ったことを言う筈でしたが、“乾杯、乾杯”と始まってしまいました。遅れたメンバーも次々に登場し、「早くに銀座に来たのに、店の名前を忘れてしまって」という岡部さんも現れ、匂いを頼りに来たのかと思ったら、私の家に電話をして愚妻に場所を聞いたとか。最後に並木さんがやって来て、予定していた全員の顔が揃いました。

焼鳥屋さんなのに刺身から出て来て、太い蟹の足もドカンと置かれました。しっかりと身の詰まった旨い蟹で、明の時代の詩人が「農村の稲が実る頃、カニは丸々と太ってくる～」とうたったように、やはり蟹は秋から冬のものだと思いました。これが上海蟹なら最高なのですがね。「たかが焼鳥屋さんなのに、川越から出て来るのも厭だと思っていたら、いろいろ出て来て旨かったよ」という市の川さんの声も聞かれました。世話人の一人としてはホットする言葉です。今年からメンバーになられた4人（北島、松田、並木、吉野さん）の内、北島さんだけは忘年会が重なったそうで来られませんでした。お酒を飲みながら少しはクラブの雰囲気がお解り頂けたでしょうか。来年も度々参加して、なお一層お楽しみ頂きたいと願っております。10時をかなり回り、お酒のピッチも落ちて来たところで、“そろそろお開きにしましょうか”ということとなり、景気よく「三本締め」で今年の活動を締めくくりました。

役員として頑張っておられた石川、鈴木、山岡さん。本当にこの一年の間いろいろとありがとうございました。メンバーを代表して心より御礼申し上げます。もう一年の任期が残っています。来年はもっとお世話になるつもりですので、宜しく願い申し上げます。

今年からツーリングに来られなかったメンバーの為にと思い、私の独断と偏見で「かわらばん」なるものをお届け致しております。切手代はクラブから頂いていますが、私の発送する書類のコピーは全部、安田令夫人の文枝さんをお願いいたしております。本当にこの一年の間、毎回ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

また素晴らしいクラブの封筒を、値切りに値切って作って下さった浅田さん。ありがとうございました。お陰様で雑文の「かわらばん」の見栄えが、すっかり良くなりました。

なお来年の会費¥12,000也を、年内に所定口座にお振り込み頂きたいと思っております。振り込みの確認をもって、来年以降のクラブ員と認めさせていただきますのでヨロシク。

振り込み先 ; 第一勧業銀行／京橋支店、普通口座 NO.1770591

「RSクラブ 会計石川 進」

来年の公式ツーリングは3月より始まります。原則的に第一日曜日に走りますが、午後から20%以上の雨の場合は、自動的にその週の土曜日にスライドします。なお5月と11月は連休が入るので第2日曜日とし、10月の一泊は第2ないしは第4土曜日とする予定です。

良いお年をお迎え下さい。